

# はじめに

～あたりまえの日常に感謝の気持ちをもつ～

「今ある日常は決して、『あたりまえ』ではありません。だんだんと変わり、いつかはきっとなくなっています。ありふれた日常の中にある、身近な人の思いに対して丁寧に向き合い、感謝の気持ちを伝えていきたいです。」

これは、今年度の少年の主張愛知県大会で最優秀賞（県知事賞）をとり、全国大会で入賞した、蒲郡中学校3年生荒島彩乃さんの「たった一言が言えなくて」の結びの言葉です。4年前に亡くなったお母さんに「ありがとう」の言葉が言えなかった後悔の念と、それ以上に、新たな一步を踏み出そうとする決意が痛いほどに伝わってきます。市の地域安全・青少年健全育成市民大会での思いあふれる発表は、多くの涙を誘いました。

「また熊本に地震がきた。一睡もできず、もうすぐ夜明けかという頃、一台のバイクが走り抜けた。こんな非常時の朝でさえも、定刻に新聞が配達されている。熊本の人々は被災者であり、配達員も被災者であるのに、あたり前のように新聞が配達されている。ここに日常がある。いつもの朝がある。日常はきっと取り戻せると確信した。」

これは、日本新聞協会エッセイコンテストの最優秀賞作品「新聞がくれた勇気」の要約内容です。被災して大変な時でも、毎日新聞が配達される喜び、日常を支えてくれる方々への深い感謝の気持ちが伝わってきます。

どちらにも言えることは、私たちが当たり前であると感じている日常は、多くの方々の陰ながらの思いや支えがあってこそその日常ということです。

本年度も、各地区の地域ふれあい活動、補導員の方々のボランティア活動、若者支援活動等、様々な方のおかげで青少年の健全育成が推進されました。あたりまえのように1年が終わりますが、その陰には、多くの方のご尽力により、家庭・地域・学校の三者が一体となって、子どもたちのことを常に見守り、支えることのできる環境があることをうれしく思います。

- 家庭には、暖かで穏やかな日常がある。豊かなコミュニケーションの場がある。
- 地域には、明るい挨拶と笑顔、お互いを見守り、打ち解けあう場がある。
- 学校には、お互いを認めあう仲間がいる。挑戦できる場がある。

そんなことを思いつつ、何気ない日常を支え、青少年健全育成推進事業にご尽力いただいております皆様方に深く感謝を申し上げ、本事業のさらなる充実・発展を衷心よりご祈念いたしまして結びとします。

平成30年2月 蒲郡市教育長 廣中達憲

# も く じ

は じ め に

I	平成 29 年度	青少年健全育成地域活動推進事業	-----	1
II	平成 29 年度	青少年健全育成協議会・地域ふれあい活動	-----	2
1	大 塚 地 区		-----	3
2	三 谷 地 区		-----	7
3	蒲 郡 地 区		-----	11
4	中 部 地 区		-----	16
5	塩 津 地 区		-----	20
6	形 原 地 区		-----	27
7	西 浦 地 区		-----	35
	○健全育成協議会並びにふれあい活動のまとめ		-----	39
III	補 導 員 活 動		-----	40
IV	平成 29 年度	地域安全・青少年健全育成市民大会	-----	41
	○大 会 宣 言		-----	42
	○小学生・中学生・高校生の意見発表		-----	43
V	蒲郡市子ども・若者支援ネットワーク協議会の取組		-----	57
お わ り に				